

No.3

2005年12月発行

淀川水系 流域委員会

木津川上流部会ニュース

<http://www.yodoriver.org>

CONTENTS

- 第3回木津川上流部会の内容…………… P. 1
- 第3回木津川上流部会の説明資料より抜粋…………… P. 3
- 配付資料リスト…………… P. 7
- 木津川上流部会 委員リスト…………… P. 8
- これまで開催された会議等について…………… P. 9
- 配付資料及び意見書の閲覧・入手方法・ご意見受付…………… P. 10

平成17年10月25日（火）、第3回木津川上流部会が開かれました。



【名張シティホテルにて】

第3回木津川上流部会の内容

審議資料1-12「淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）」を参考に、委員との意見交換が行われました

第3回木津川上流部会結果報告

庶務作成

開催日時：2005年10月25日（火）13：00～16：00

場 所：名張シティホテル 3階 天平・鳳凰の間

参加者数：委員11名、河川管理者14名、一般傍聴者104名

1. 決定事項：特になし
2. 報告の概要

河川管理者より、報告資料1「高山ダムの曝気循環設備について」、報告資料2「オオサンショウウオの遺伝的多様性について」を用いて説明がなされた後、意見交換がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・曝気設備の1㎡辺りのコスト（メンテナンス費用、電気代）と耐用年数を教えて頂きたい。
- ・今回のデータだけで、曝気設備がアオコと水温躍層に有効かどうかは言えない。03年と04年は確かにアオコは発生していないが、アオコの発生する7月と8月に200mm以上の雨が降っているため、降雨に流されてしまったのかもしれない。気象状況や流量、貯水湖の回転率等も示して頂きたい。
←03年と04年の降雨量が多かったのは確かだ。ただ、今年は非常に出水が少なく、夏場に猛暑が続いたにもかかわらず、アオコが発生していない（河川管理者）。
←数年間の実績しかないため、結論を出すためにはデータの積み重ねが必要だ（部会長）。
- ・水質予測手法には限界があるので、予防原則で考えていくべきだ。水質予測と水質汚濁対策の不確実も含めて、住民等への説明をしていくべき。また、コストまで含めた妥当性の検討も必要だ。
- ・透明度とクロロフィルの測定値があれば出して頂きたい。審議資料1-2 P5のグラフは水深ではなく標高のデータが出ており、わかりにくい。また、マイクロキスティスのグラフは曝気前後で比較した方がよい。

3. 審議の概要

①川上ダムの調査検討についての意見交換

審議資料1-12「淀川水系5ダムの調査検討についての意見（目次案）」を参考に意見交換がなされた。なお、河川管理者から審議資料1-13「淀川下流部における水需給バランスについて 木津川下流及び名張川取水している利水者の水需給バランスについて」の説明がなされた。主な意見は以下の通り（例示）。

○治水について

- ・氾濫解析では、堤防天端一余裕高で氾濫するという仮定で検討されている。流域委員会は、氾濫量ではなく、部分開削によって下がる水位を知りたい。
←岩倉地点の流下能力が向上した場合の氾濫量については計算をしているが、どういう断面であればどれだけ流れるかといった検討はしていない（河川管理者）。
- ・岩倉峡の水位流量曲線は2つの方法で解析されている。1つめは、流量観測法（実際の洪水の水位と流量を実測で計測）だが、対象洪水の数は少なく、最近のデータしかない。2つめは、不等流計算。河川管理者は初歩的なミスを犯しており、現在、改善された方法で計算しなおしているが、 Manningの粗度係数をどう評価するかがポイント。これまでは、かなり上の数値になっている。防災上の観点から見れば妥当だとは思いますが、水理計算をしていく上では、平均的な値を採用すべき。既往最大規模を3000m³/s程度だとすれば、粗度係数によっては岩倉峡水位に50cm以上の差が出て、上野地区の治水計画が大幅に変わってくる。いまだに川上ダムの検討に値する資料が示されておらず、どのように判断していけばよいのか。
←現在、計算精度をさらに上げるために詳細な検討を続けている。見通しとしては、これまで示してきた数値と大きく変わらないのではないかと考えている。検討結果はあらためて報告する（河川管理者）。
- ・川上ダムの流域内の雨量観測所は1カ所。より多くのデータのためには、流域毎に雨量観測所が必要だ。
- ・既往最大をいろんな降雨パターンにあてはめて引き延ばすやり方は疑問だ。1/100や1/150といった実績降雨をいろんなパターンで検討する手法であればよいと思う。
- ・既往最大洪水（昭和57年10号台風）を対象に堤防が破堤しないと仮定して、越流堤見直し・河道掘削・新遊水地1カ所増設だけで、HWLは超えるのか。つまり、将来的な堤防整備（越流しても破堤しない堤防）を考慮に入れた検討が必要ではないか。
←堤防天端まで破堤しないケースは検討したが、HWLを超えるかどうかについては、確認したい（河川管理者）。

○利水について

- ・水需給バランスのグラフにおいて、供給可能量の比較対象になっているのは、最大取水量。日取水量の月平均値と比べて10%程度の差がある。現実の供給能力を検討するためには、最大取水量は過大ではないか。
- ・最大取水量との比較は一面的な比較であって、供給能力の実態調査になっていない。最大取水量よりも平均日量をはるかに実態に近い。両方とも示して頂きたい。
←水利権量は最大取水量に対応して設定されているため、最大取水量と比較した。平均日量を出せると思う（河川管理者）。
- ・川上ダムの利水容量が減っても、三重県の水源費の費用負担が同じままであることは疑問。高額な水価についても県民の合意が十分には行われていない。残り400億円でダムができるのかも問題（部会長）。

○その他

- ・多目的ダムか治水専用ダムかによって関連地域整備等への影響等が出てくるのか。
←ダム計画は複数の目的のもとで行われるが、目的の追加・消失が生じた場合には、ダムの構造ダム、費用負担、負担割合が変わってくる。目的変更によって多目的の要件を満たさなくなれば、特定多目的ダム法とは別の根拠法に基づくダム事業になる。関連整備については、一般論ではなく、個別の事業毎に考えていくことであり、それぞれの関係者と調整をしていく（河川管理者）。
- ・ダム計画変更によって、環境の便益が増えれば（ダム規模縮小によるオオサンショウウオ等の環境便益）、この分のダム建設費用を国が負担するというにならないのか。
←明示的なダムの目的に費用を出す人が集まって造るので、おそらくできないだろう（河川管理者）。
- ・住民から川上ダム賛成・反対のそれぞれの立場からさまざまな意見が寄せられている。河川管理者は、ダム建設に不安を持っている住民に対して、新しいダムの方針についてどのような説明をしてきたのか。
←断層については、住民説明会を開いて説明している。資料等はHPでも公開している（河川管理者）。

4. 一般傍聴者からの意見聴取：一般傍聴者10名からの発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・三重県の企業庁と水道部の責任者に話を聞けば、ダムによる利水が不要だということが分かる。環境税や森林交付税をとりいれた森林保全等の地域整備について審議して頂きたい。
- ・断層については具体的な科学的な調査はされていない。参考資料1 No. 661で意見を提出しているので、ご参考頂きたい。川上ダムサイト直近に大断層帯が存在しており、西暦599年にM7の地震が起きている。意見書の中で指摘している2本の活断層は1406年前にも活動している。河川管理者はダム建設が認められたら時に調査すると返答しているが、説明責任をないがしろする態度だ。
- ・伊賀市の水道は比較的小規模なものが多い。近年の少雨化傾向によって水源の枯渇が進み、水の確保に苦慮している。川上ダムがなければ、水道事業経営の健全化が難しくなる。ダムの早期建設を切望する。
- ・前回の部会で出した質問への回答をお願いしたい。移転決断をしたのは、地元は反対していたにも関わらず青山町が建設を陳情してきたからだ。墓を掘り起こしてまで移転に協力してきた。委員会の審議にはもっともな点もあるが、移転者の思いもある。移転住民の話を聞いて頂きたい。
- ・移転者に関する問題は、さまざまなダムで起きているが、河川管理者からの良心的な返答がない。委員会の質問にもまともに答えようとしていない。
- ・「長い間、問題があったけれども、補償がなされ、生活も再建されてよかったと思っている」という移転者の友人の声を伝えたい。桐ヶ丘で住民説明会が開催されたが、大紛糾で時間切れとなった。説明内容に住民は納得していない。木津川の水量を見れば伊賀市の水が足りていないというのは信じられない。水利権確保の努力をしてほしい。孫の世代の役に立つ事業をしてほしい。
- ・岩倉峡HQ曲線に50cmの水位差があれば、S40.24号台風を引き延ばした検討結果（ダムありなら堤防天端一余裕高を超えないが、ダムなしの場合は超える第4回ダムWG）が変わってくる。きちんと検討すべき。
- ・国土交通省は基本方針を河川分科会で短期間で決めようとしている。流域委員会の審議に基づいた河川整備基本方針策定を要望する。アメリカのマチリアダム撤去費用は約155億円だが撤去に踏み切った。環境、費用の面からも孫の代に負の遺産を残すべきでない。
- ・いろんな意見があったが、国を信頼して、平成8年に調印に至った。これまでの経緯があるにも関わらず、ダム中止とはどういうわけか。一刻も早い建設をお願いしたい。移転者の心情を汲んで頂きたい。
- ・河川管理者の対応が遅い。委員会を利用して、事業を遅らせているのではないか。川上ダムを中止するならば、岩倉峡をすぐに開削して頂きたい。1/10対策は約束だ。また、安全に水が供給できるようにするのは行政の責任。水利権の振り替えができるのかどうか、きちんと議論して頂きたい。環境については精一杯の対策をして頂きたい。名張の公共下水事業は下流の水質改善に役立つので検討して頂きたい。

第3回木津川上流部会の説明資料より抜粋

■報告資料1より

第3回木津川上流部会では、報告資料1「高山ダムの曝気循環設備について」を用いて河川管理者から報告がなされた後、委員間で意見交換が行われました。以下に資料を掲載いたします。

高山ダムの曝気循環設備について

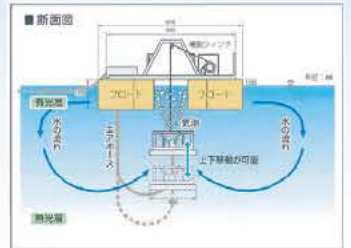
～曝気循環の概要と水質状況～

2005年10月25日
国土交通省 近畿地方整備局

1. 曝気循環設備の概要と水質状況について

①曝気循環設備の概要

- 曝気循環設備は、水深約1.5～2.0m程度から空気泡を出し湖水の鉛直循環を促すことで、アオコなど藻類（植物プランクトン）の異常発生を抑制することを目的としたものです。



1. 曝気循環設備の概要と水質状況について

②曝気循環設備の設置状況

- 国土交通省により水質保全事業として、00～03年度にかけて4基を設置しています。
- 02年度に1基、03年度に2基、04年からは4基の運用を行っています。

項目	概要
設置年度	2001年度
2基	2002年度
2基	2003年度
2基	2004年度
4基	2005年度

1. 設置場所(概略) 約1,500㎡
2. 空気供給量(概算) 約1,200㎥/日
3. 空気供給圧(概算) 約0.2MPa
4. 空気供給量(概算) 約1,200㎥/日


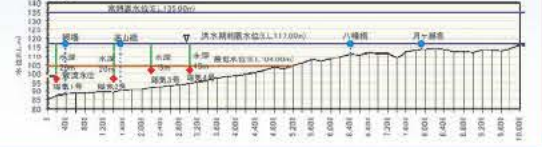
●曝気循環設備の運用状況

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
02年度												
03年度												
04年度												
05年度												

1. 曝気循環設備の概要と水質状況について

③曝気循環設備の設置状況


- ダムサイトから上流3kmまでおよそ1km間隔で設置し、曝気水深約2.0mで運転を行っています。

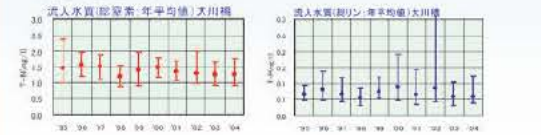
1. 曝気循環設備の概要と水質状況について

④直近10ヶ年の流況・水質の概況

・流況(年総流入量)は年によりばらつきはありますが、流入栄養塩(総窒素、総リン)の水質はほぼ横ばい状況です。



●流入水質(窒素・リン)



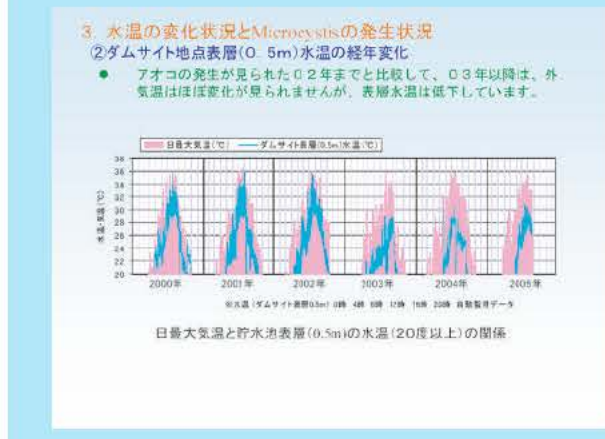
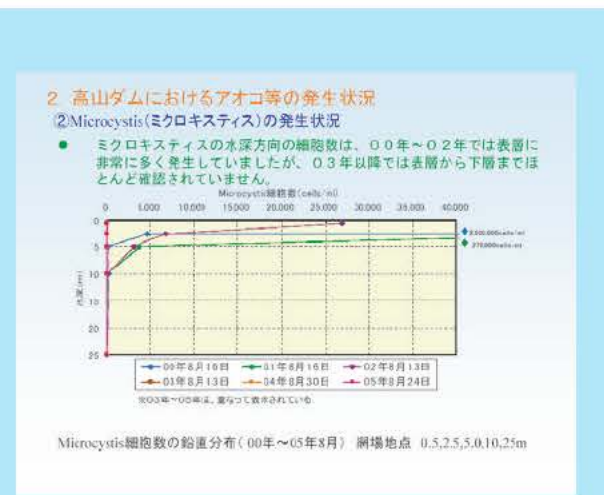
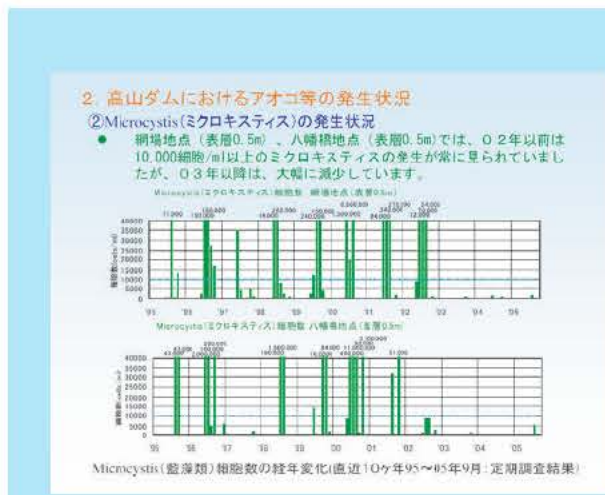
2. 高山ダムにおけるアオコの発生状況

①藻類の異常発生状況

- 毎年夏期(7月頃から9月頃)にアオコの発生が見られていましたが、曝気循環の2基運用を開始した03年以降、現時点(10月11日)まで、アオコの異常発生は見られていません。

年度	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1995												
1996												
1997												
1998												
1999												
2000												
2001												
2002												
2003												
2004												
2005												

※目視による湖底監視結果



■審議資料1-15より

第3回木津川上流部会では、審議資料1-15「川上ダムの調査検討についての意見書骨子（案）」を用いて委員間で意見交換が行われました。以下に資料を掲載いたします。

川上ダムの調査検討についての意見書骨子(案)

- 1-1 環境面からみたダムについての基本的考え
- 1-2 治水面からみたダムについての基本的考え
- 1-3 利水面からみたダムについての基本的考え
- 2～4及び6 省略

5. 川上ダム

5-1 川上ダムの経緯

- (1) 治水の目的に変更はない
- (2) 三重県の僅少な利水のみ
- (3) ダム縮小について
 - 1) 規模や運用方法の検討結果を未報告
 - 2) 縮小についての問題
 - ① これまでの調査検討は従来の規模のダムを対象として行われたもの
 - ② ダム縮小計画が明確になった時点で改めて意見を述べる

5-2 川上ダムの効果

5-2-1 治水

- (1) 集水面積について
- (2) 氾濫面積について
- (3) 水位、流量の低減について

5-3 川上ダムの問題点

5-3-1 上野地区の治水

5-3-1-1 水理解析への疑義について

- (1) 岩倉(57.4km)地点の正しい水位流量曲線
 - ① 川上ダム計画当初における根拠
- (2) 岩倉峡における水面形追跡(不等流計算)
 - ① 適切な粗度係数の設定
- (3) 遊水地の水理解析への影響

5-3-1-2 岩倉峡流入部の部分開削

- (1) 岩倉峡流入部の部分開削の効果と可能性

5-3-1-3 河川対応と流域対応

- (1) 堤防強化と2線堤

5-3-2 利水

- (1) 代替水源の検討について
- (2) 代替水源確保で治水専用ダムとなる
- (3) ダムを縮小して実施する場合、三重県単独の利水確保に必要な負担額

5-3-3 川上ダムの自然環境への影響

5-3-3-1 水質への影響について

- (1) 水質予測
- (2) 水質汚濁対策

5-3-3-2 貯水池周辺の自然環境への影響について

- (1) 希少動植物
- (2) 生息環境
- (3) 生態系
- (4) 希少動植物への対策は「保全」か？

5-3-3-2-1 オオサンショウウオへの影響について

5-3-3-2-2 オオタカへの影響について

5-3-4 流水の平滑化と土砂移動の遮断への影響について

- (1) ダム下流河川の流水の平滑化
- (2) ダムの堆砂対策
- (3) ダム下流河川への土砂移動遮断の影響
- (4) 土砂移動を遮断しないダム構造の検討

5-4 その他

- (1) 川上ダム建設費について
 - 1) 事業費の追加の必要性の有無
 - 2) 事業費追加の場合の三重県の利水負担額

配付資料リスト

	資料リスト	資料請求 No
議事次第		K3-A
○報告資料1	高山ダムの曝気循環設備について(10月25日) ※河川管理者提供資料	K3-B
○報告資料2	オオサンショウウオの遺伝的多様性について(10月25日) ※河川管理者提供資料	K3-C
審議資料1-1	淀川水系5ダムについて(調査検討のとりまとめ)	K3-D
審議資料1-2	川上ダムの調査検討(とりまとめ) ※河川管理者提供資料	K3-E
審議資料1-3	川上ダム建設に伴う自然環境への影響について(7月21日A4版) ※河川管理者提供資料	K3-F
審議資料1-4	岩倉峡部分開削効果の検討 ※河川管理者提供資料	K3-G
審議資料1-5	木津川上流上野地区の治水対策案概算額および概要図 ※河川管理者提供資料	K3-H
審議資料1-6	第43回淀川水系流域委員会(H17.7.25開催)における委員からの質問 に対する資料(8月5日版) ※河川管理者提供資料	K3-I
審議資料1-7	川上ダムの三重県利水について(8月24日版) ※河川管理者提供資料	K3-J
審議資料1-8	川上ダムについて(補足説明)(8月24日版) ※河川管理者提供資料	K3-K
審議資料1-9	第43回淀川水系流域委員会(H17.7.25開催)における委員からの質問 に対する資料(8月24日版) ※河川管理者提供資料	K3-L
審議資料1-10	第43回委員会(2005.08.05開催)時に公開された資料の解析結果	K3-M
審議資料1-11	川上ダム建設に伴う自然環境への影響について 補足説明(9月12日版) ※河川管理者提供資料	K3-N
審議資料1-12	流域平均雨量計算に使用した雨量観測所について(9月12日版) ※河川管理者提供資料	K3-O
○審議資料1-13	「淀川下流部における水需給バランスについて」 「木津川下流及び名張川取水している利水者の水需給バランスについて」(10月25日) ※河川管理者提供資料	K3-P
○審議資料1-14	川上ダムの流域諸元について(10月25日) ※河川管理者提供資料	K3-Q
○審議資料1-15	川上ダムの調査検討についての意見書骨子(案)	K3-R
その他資料	委員会の今後のスケジュール	K3-S
参考資料1	委員および一般からのご意見	K3-T
参考資料2	木津川上流部会・意見交換会(H17.9.12開催)結果報告	K3-U
参考資料3	新聞記事集	K3-V

注：○：新たに河川管理者から提供(または修正)のあった資料

注：紙面の都合上、資料内容は省略しています。資料をご覧になりたい方はP.10の「配付資料及び意見書の
閲覧・入手方法」をご覧ください。

木津川上流部会 委員リスト

2005.10.25現在
(五十音順、敬称略)

No.	氏名	対象分野	所属等	兼任状況
1	今本 博健	洪水	京都大学 名誉教授 水工技術研究会 会長	淀川部会 利水・水需要管理部会
2	江頭 進治	河道形状・土砂移動	立命館大学工学部 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
3	岡田 憲夫	事業評価	京都大学防災研究所 教授	淀川部会 住民参加部会
4	荻野 芳彦	農業関係	大阪府立大学 名誉教授	淀川部会 利水・水需要管理部会
5	川上 聡	住民連携	NPO法人 全国水環境交流会 理事 木津川源流研究所 所長	淀川部会 利水・水需要管理部会
6	中村 正久	水環境	滋賀大学 環境総合研究センター 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
7	水山 高久	治山・砂防	京都大学大学院農学研究科 教授	琵琶湖部会 利水・水需要管理部会
8	村上 哲生	水質	名古屋女子大学 教授	住民参加部会

これまで開催された会議等について

委員会	琵琶湖部会	淀川部会	猪名川部会
第1回～第6回 平成13年開催	第1回～第8回 平成13年開催	第1回～第10回 平成13年開催	第1回～第6回 平成13年開催
第7回～第15回 平成14年開催	第9回～第20回 平成14年開催	第11回～第20回 平成14年開催	第7回～第17回 平成14年開催
第16回～第27回 平成15年開催	第21回～第27回 平成15年開催	第21回～第23回 平成15年開催	第18回～第20回 平成15年開催
第28回 H16/2/26 (木)	第28回 H16/10/13 (水)	第24回 H16/8/25 (水)	第21回 H16/9/1 (水)
第29回 H16/5/8 (土)	第29回 H16/11/8 (月)	第25回 H16/9/17 (金)	第22回 H16/10/21 (木)
第30回 H16/6/22 (火)	第30回 H16/12/15 (水)	第26回 H16/10/19 (火)	第23回 H16/11/2 (火)
第31回 H16/7/29 (木)	第31回 H17/1/8 (土)	第27回 H16/11/30 (火)	第24回 H16/12/3 (金)
第32回 H16/8/24 (火)	第32回 H17/4/13 (水)	第28回 H16/12/18 (土)	第25回 H16/12/23 (木)
第33回 H16/9/29 (水)	第33回 H17/8/17 (水)	第29回 H17/4/11 (月)	第26回 H17/4/14 (木)
第34回 H16/10/25 (月)	第34回 H17/9/14 (水)	第30回 H17/8/22 (月)	第27回 H17/8/18 (木)
第35回 H16/11/16 (火)	第35回 H17/10/19 (水)	第31回 H17/9/13 (火)	第28回 H17/9/11 (日)
第36回 H16/12/20 (月)	木津川上流部会	第32回 H17/10/21 (金)	第29回 H17/10/23 (日)
第37回 H17/1/11 (火)	第1回 H17/4/20 (水)	ダムWG	3ダムサブWG
第38回 H17/1/22 (土)	第2回 H17/8/20 (土)	第1回 H16/7/11 (日)	第1回 H16/8/7 (土)
第39回 H17/2/5 (土)	環境・利用部会	第2回 H16/7/18 (日)	第2回 H16/9/11 (土)
第40回 H17/3/14 (月)	第1回～第7回 平成15年開催	第3回 H16/7/25 (日)	第3回 H16/11/8 (月)
第41回 H17/5/17 (火)	治水部会	第4回 H16/8/19 (木)	川上ダムサブWG
第42回 H17/7/21 (木)	第1回～第6回 平成15年開催	第5回 H16/9/23 (木)	第1回 H16/8/3 (火)
第43回 H17/7/25 (月)	利水・水需要管理部会 (旧利水部会)	第6回 H16/10/4 (月)	第2回 H16/9/3 (金)
第44回 H17/8/5 (金)	第1回～第5回 平成15年開催	第7回 H16/10/18 (月)	余野川ダムサブWG
第45回 H17/8/24 (水)	第6回 H17/4/24 (日)	第8回 H16/11/10 (水)	第1回 H16/8/11 (水)
第46回 H17/9/24 (土)	住民参加部会	第9回 H16/12/1 (水)	第2回 H16/9/22 (水)
設立会、発足会 第1回 合同懇談会	第1回～第7回 平成15年開催	第10回 H16/12/5 (日)	水位操作WG
第1回合同勉強会 シンポジウム 拡大委員会	第8回 H17/4/24 (日)	丹生ダム意見交換会	第1回 H17/6/29 (水)
提言説明会	平成13年開催	住民の意見を聞く会	
しっかりしてや!!流域委員会 ファシリテーターとの検討会	平成14年開催	住民と委員との意見交換会(丹生ダム)	
大戸川、天瀬ダム意見交換	平成15年開催	住民と委員との意見交換会(余野川ダム)	
	H16/2/28 (土)	住民と委員との意見交換会(川上ダム)	
	H16/5/15 (土)	住民と委員との意見交換会(大戸川ダム、天ヶ瀬ダム再開発)	
	H16/9/26 (日)	木津川上流部会意見交換会	
		H17/8/17 (水)	
		H17/8/18 (木)	
		H17/8/20 (土)	
		H17/8/22 (月)	
		H17/9/12 (月)	

配付資料及び意見書の閲覧・入手方法

以下の方法で資料及び意見書を閲覧、または入手することができます。ただし、以下の点にご注意下さい。
 ・当日会場で部数の関係上、一般傍聴者に配付されなかった資料は、閲覧のみ可能とさせていただきます。
 ・当日会場で一般傍聴者に配付された資料で原本がカラーの資料は、白黒での提供となります。カラーの資料を希望される場合にはコピー代を実費でいただきます。なお、カラー資料についてはホームページ等での閲覧は可能です。

ホームページによる閲覧

配付資料及び意見書は、ホームページで公開しております。

郵送

郵送による配付資料の送付を希望される方には、送料実費にて承っております。(希望部数が多い場合、またカラーの資料を希望される場合はコピー代も実費でいただきますので、予めご了承ください。)ご希望の方は、FAXまたは郵送、E-mailで庶務までお申し込みください。

閲覧

資料の閲覧を希望される方は、庶務までご連絡ください。

「意見書」の入手

意見書の送付を希望される方は、氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号と「意見書希望」を明記のうえ、下記までご連絡ください。

※頂いた個人情報については、上記資料及び意見書の送付のみに使用させていただきます。

ご意見受付

淀川水系流域委員会ではみなさまのご意見を募集しています。

ホームページ、E-mailまたはFAXにてお寄せ下さい。

※氏名、郵便番号、住所、団体・会社名、電話番号をご記入のうえ、下記までお寄せ下さい。

※寄せられたご意見は公表させていただく場合がございます。公表に支障がある場合にはその旨も併せてご記入いただきますよう、お願いいたします。

※ご意見を公表する場合には、団体・会社名(または居住地)とお名前も公表いたしますので予めご了承下さい。

※ご記入いただいた個人情報については、上記の意見の公表のみに使用させていただきます。

■ホームページ <http://www.yodoriver.org>

■E-mail yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

■TEL 06-6222-5870

■FAX 06-6222-5871

淀川水系流域委員会 庶務
みずほ情報総研(株)

淀川水系流域委員会 木津川上流部会ニュース No.3

2005年12月発行

【編集・発行】淀川水系流域委員会

【連絡先】淀川水系流域委員会 庶務

みずほ情報総研 株式会社

.....
研究員：吉岡、篠田、鈴木、熊谷、松本
事務担当：山根

〒541-0042 大阪市中央区今橋4-2-1 (大阪富士ビル8階)

TEL: (06) 6222-5870 FAX: (06) 6222-5871

E-mail: yodogawa@gene.mizuho-ir.co.jp

●流域委員会ホームページアドレス

<http://www.yodoriver.org>

◆ニュースレターは以下の機関でも配布しています。

国土交通省 近畿地方整備局／淀川河川事務所／琵琶湖河川事務所／大戸川ダム工事事務所／淀川ダム統合管理事務所／猪名川河川事務所／猪名川総合開発工事事務所／木津川上流河川事務所／水資源機構 関西支社／滋賀県 土木交通部河港課／京都府 土木建築部河川計画室／大阪府 土木部河川室／兵庫県 土木局河川計画課／奈良県 土木部河川課／三重県 伊賀県民局 等

*ニュースレターは最新号、バックナンバーともに、ホームページでもご覧頂けます。